**松代について**

松代は歴史的な城下町で、現在は長野市の一部となっています。松代の街並みは江戸時代（1603 年～1867 年）からほとんど変わっておらず、そして松代の歴史的なスポットの多くは徒歩で簡単に訪れることができます。

成り立ち

16 世紀半ば、甲斐（現在の山梨）の大名の武田信玄（1521 年～1573 年）は、現在の長野県である信濃地方で領土を北に拡大していました。そして信濃で、信玄は北東の越後地方の上杉の軍隊から激しい抵抗を受けたのです。そして 1560 年、信玄はこの土地の守りを固めるために、松代に城を建設したのです。

この城は元々「海津城」という名前で、防衛に適した立地でした。千曲川は城の北側に沿って流れているために堀として機能し、また近くの山々は南西から北東にかけ、自然の U 型の障壁となっていたのです。

江戸時代の松代

海津城は、1603 年の徳川幕府の設立にまで数回城主が変わり、その後、さらに 2 回の城主の入れ替わりを経て、1622 年に真田信之（1566 年～1658 年）が松代藩の初代藩主に任命されました。そして明治維新によって封建制度が解体されるまで、真田一族は松代を 10 代にわたって治めてきたのでした。

1711 年に松代城に改名された海津城は、松代の町の発展の原動力の中心となりました。南と東の城壁の外側は、武士とその家族が暮らす円弧状の地区となっていました。この武士の地区の向こうには、町の商人や平民が暮らしていました。そして下級の武士のための別の住宅地は、周囲の山に向かってさらに扇状に広がっていたのです。そして松代の町の東端には、真田家の寺である長国寺が建てられたのでした。

真田家が代々松代を支配する過程で、さらに多くの寺院と霊屋が作られていきました。大英寺は、1622 年に亡くなった妻の小松姫（1573-1620）を弔うために、真田信之によって建てられた寺です。また小松姫の霊屋もこの場所にあり、この霊屋は真田家の最大かつ最古の霊廟となっています。そして西楽寺には真田信之の三男である信重の霊屋があります。

松代藩文武学校は 1853 年に設立されました。城のすぐ南に建てられたこの学校は、武士の子供たちの教育の場となっていました。

1863 年、新御殿建造の理由は参勤交代の緩和により、藩主家族の国元での住居が必要となったため、第 9 代藩主である幸教（1836 年～1869 年）は、松代城内の南側に新しい住居を建

てました。この真田邸は当初は幸教の義理の母が住んでいた場所でしたが、後に城主の隠居所としても使用されるようになりました。

現在の松代
松代城の多くの部分は明治維新の最初に解体されましたが、石造りの基礎の多くはまだ現存しています。また城の他の部分は再び建造されました。松代の周辺には武士地区の建造物や壁、そして裕福な商人が暮らしていた家のいくつかが今でも残っています。

真田邸とその周辺の庭園は、松代観光案内所に隣接する真田宝物館の後ろにあり、旧松代駅から歩いてすぐの場所となります。また文武学校は、江戸時代に作られた 250 校以上の学校のうち、現在もほぼ完全に残っている唯一の学校です。

江戸時代に商人や庶民たちが暮らしていた家沿いの道路も、松代の町の東西の大通りや北に向かって走る「長野県道 35 号長野真田線」として今も残っています。